

### 3. 大学生（社会科教育法受講者）の社会科の認識について

山田 孝

**【抄録】** 社会科教育法を受講している大学生に簡単な意識調査を行った。社会科の教員をめざす大学生が、社会科（特に歴史）について、どのような感想・意見を持っているのか調査し、今後の社会科教育の参考にしていきたい。

**【キーワード】** 社会科 大学生 日本史 世界史 平和教育

#### はじめに

今回、初めて社会科教育法の講座を一部受け持つことになった。受講する大学生は、一応、社会科の教員を目指しているわけだが、その大学生諸君が、大学におけるまで、どのような社会科の授業（特に歴史）を受けてきたのか、この機会に簡単に調査してみることにした。これは、私が担当した3回の講座の中でも、フィードバックし、彼らの持っている社会科像を利用して講義を進める目的もあった。しかし、一方で、高校までにどのような社会科像が形成されているのか、特に自分が、中学・高校教育に携わっている関係上興味があった。

私自身、教師をめざすきっかけになったのが、高校の世界史の授業であった。私にとって、社会科＝世界史の授業は、進路選択の上でも大きな影響を与えるものであった。けっして、この経験がすべての事例にあてはまるわけではないが、社会科という教科が持っている普遍的な影響力というものがあるならば、それを調査してみたいと思う。また、受講がどんな、歴史教育をめざしているのか、あわせて意見を聞いてみた。

アンケート自体は、講義の最初に行い、3回の講義の中で実施した。回答者数は、その時の出席者数によって異なっている。

#### 1. 高校時代の歴史の授業について

(1) アンケート項目と結果 回答46人 複数回答

① 高校時代に歴史（日本史・世界史）の授業を受けたことがありますか。

- ・世界史を受けたことがある………38人
- ・日本史を受けたことがある………36人
- ・どちらも受けたことがない………1人

②. ①の間で受けたことがあると答えた人につ

いて、その授業は、受験対策のものでしたか。

- ・はい ……36人
- ・いいえ ……17人

③ 今までの歴史の授業の中で特に印象が残っていることがあれば、その内容を書いてください。

- ・特に印象に残っていることがある ……34人
- ・特に印象に残るものはない ……12人

①の質問の結果だが、意外と世界史を受けた人が多い。全体の約83%が世界史を学習していることになる。これは新学習指導要領で、世界史を必修にする以前の数字としては高いのではないだろうか。全体的な回答者の数が少ないので、この数値から全国的な特徴を見いだすことはできないが、今回の社会科教育法受講者の傾向であるとは言える。

②の質問については、どれだけ受験対策の授業が行われていたのかである。これも全体の約78%が受験対策の授業と答えている。世界史・日本史も受験科目である以上、何らかの受験対策が必要なわけである。上数値から、大半の大学生が受験対策の授業を経験していることになる。

③の質問が、この問の中で一番、大学生に聞いてみたかったことである。「特に印象に残っていることがある」約74%は、多いとして評価できるであろうか。逆に「特に印象に残るものはない」約26%は、意外に多いのではないだろうか。この数字自体が、現状の社会科教育を反映しているわけではないが、現場で実践をしている者には考えさせられる数字である。

(2) 授業で印象に残っている内容について

- ・世界史の先生が「歴史は暗記課目じゃない。」

### 3. 大学生（社会科教育法受講者）の社会科の認識について

- 事件などの原因、経過、結果、その影響を常に考え、理解するんだ」とおっしゃったこと。
- ・歴史事実からんだおもしろい話をしてくれたこと
- ・学校付近の遺跡が書いてある紙をみせて、それについて詳しく説明してくれたこと。
- ・月1回の割合で、歴史上のエピソード等を載せた新聞を発行してくれた。
- ・教科書に書いてあるままに機械的に教えられるよりも、いろいろな事実と関連するエピソードを教えてくれたこと。
- ・グループ作業、発表で資料を見つけるのが楽しかった。
- ・日本史の先生は、現代史に批判的に論じていたので大変共感できた。
- ・過去の人々の考え方、生き方を教えてくれたこと

以上、おもな内容を書いてみた。やはり印象に残っていることは、教科書の内容よりも、教えている教師の生き方、考え方が現われていることに印象が強いうだ。また、教科通信などプリントを作っていた教師も印象に残っている。

上記の内容には、比較的好意的なものが多いが、逆に悪い意味で印象に残っているものもある。特定の分野が好きな教師が、その部分だけ時間をかけて教えた。また、特定の地域になると進度が遅くなり不評をかったり、教師が自分の歴史ネタで自分1人でうけていて無為な時間であった等の意見もあった。

## 2. 大学生の社会科教師像

大学までの社会科についてのアンケート結果について述べてきたが、次は社会科教育法受講者が、社会科を教える場合にどんな点について留意するのか、また、社会科教師として目指すものをアンケートしてみた。

### (1)実際に歴史を教える場合の視点について

- ・生徒の理解を助けるべきである。考える姿勢を大切にしたい。
- ・歴史は民衆がつくったものであり、身近なものとして考えられるようにしたい。
- ・さまざまな国の歴史から現在の世界が成り立っているのだという視点。
- ・人間臭く、まんがや小説などを多用して興味をひきながら教えたい。
- ・歴史全体の流れを教えて、各個人の歴史観を育てる。

- ・生徒が持っているであろう歴史的知識に関連させる。
- ・真実を教える。特に戦争については自分の価値観を押しつけるのではなく、あらゆる意見を見せて、みんなで考えたい。
- ・近代の人権思想につながる視点。
- ・実際に資料を見せて、何を導き得るかという思考力を育てていきたい。
- ・支配者や権力者の側から見た歴史ではなく、被支配者や庶民の見方も教え、いろいろな視点があることを教えていきたい。
- ・ある時代、同時代に日本と世界ではどのようなことが起こっていたのか横のつながりを重視したい。
- ・現代社会の様々な問題、例えば環境問題など現代の問題を考えていくようにしたい。

以上特徴的なものを著したが、全体的に言えることは、大学生諸君も自らが受けた社会科の授業を考参しながら、歴史教育の視点をおさえていると言える。確かに、現実はそのように簡単なものではないが、大学生として、若々しい問題意識で社会科の授業に取り組もうとする姿勢が見られる。

### (2)自分のめざす社会科教師像

- ・常に問題意識を持つ教師でありたい。
- ・問題意識を抱えず投げかけることで「日本は平和な国だ」なんて、誤解している生徒が、1年後には、自分の受け持ちクラスには、いなくなるような授業にしたいです。
- ・自分なりの歴史観を持った教師になりたい。
- ・授業によって社会科が嫌いになるような授業だけはしたくない。
- ・活動的で積極的な教師になりたい。
- ・常に生徒の立場に立って物事を考えることのできる教師になりたい。
- ・考える力や判断する力をつけていくような授業をやりたいと思います。
- ・「共に学んでいく」という教師でなければと思っています。

社会科教科法を受講した大学生諸君が、ていねいにしかし、表現力豊かにどんな社会科教師を目指すのか書いてくれた。残念ながらすべて紹介しきれないので特徴的なものを部分的に紹介することにした。自らのめざす教師像については、その実現性がどうであれ、ある程度の明確なイメージを持っていることに安心し

た。

教師も何年か経ると忘れてきまいそんな理想を活き活きと持っている大学生を見習いたいと思う。

### 3. 平和教育について

去る5月18日月曜日の毎日新聞夕刊に、名古屋大学教養部安川寿之輔教授による、「平和・女性問題 名大生423人アンケート」の結果が報じられていた。このアンケート結果で、社会科教師として衝激を受けたのは、「日本の海外侵略の始まりとなった満州事変。1945年8月の敗戦にいたるまでのこの十五年戦争の開戦日を知っている名大生はわずか1%、二割を超す大学生が、太平洋戦争の終戦日も知らない」ことであった。教授は、「責められるべきは学生ではなく、むしろ平和教育を怠っている文部省だろう」と語っているのだが、私は、「平和教育を怠っている」社会科教師も責められるべきものだと考えている。社会科教師がしっかりした視点を持って平和教育を行っていかなければ、平和の問題も定着していかないだろう。

私は常々、平和教育における社会科教師の重要性を考え、安川教授と同様（質問の形体が異なるが）な質問をしている。これは、大学までの間に侵略戦争＝十五年戦争の学習がどのぐらい定着しているのか見るためのものであった。質問の形体は、年月日から歴史的事項を関連付けるためのもので、安川教授の「満州事変の日付は」、「太平洋戦争の終戦日は」といった日付を答えさせるものではなく、単純に比較できるものではないが。

#### (1) 平和に関するアンケートについて

次は歴史に関する簡単な常識問題です。下の日付に関連する出来事について、知っていることがあれば教えてください。(回答46人)

問	正解率
①1914年6月28日	78%
②1931年9月18日	78%
③1941年12月8日	96%
④1945年8月6日	100%
⑤1945年8月9日	100%
⑥1945年8月15日	100%

年号年月日から、歴史的事項と関連させる質問はあまりにも受験問題的であり、受験戦争を勝ち抜いてきた大学生諸君には簡単であったかも知れないが、それにしても、安川教授のアンケート結果よりはるかに正解率が高くなっている。

①は、他の質問と正解率を比較するために入れたもので、サラエボ事件。②が柳条湖事件とも言われる、満州事変。十五年戦争の勃発である。③真珠湾攻撃、アジア・太平洋戦争開始。④・⑤は言わずと知れた、広島・長崎の原爆投下の日である。⑥日本の敗戦。

この結果だけでは、大学に入ってから研究の成果か、高校までの学習が判別しがたいが、社会科教育法受講者の知識はかなり高いと言える。もう少し好意的に考えれば、一定の平和教育に関する認識が高いと言えるのではないか。安川教授のアンケートに見られる、敗戦の日を知らない、という極端なことはないようである。大学生の平和意識の欠除が指摘される中においては、良い結果と言えるだろう。単純に受験勉強の成果だけでなく、平和教育の成果であるとも考えたい。

#### おわりに

社会科教育法の中でアンケートを取り、これをもとにして講義を進めようとも考えていたのだが、意外と社会科および社会科教師像について雄弁に答えてくれる大学生の姿を見たような気がする。そして、今回のアンケート内容だけでは、大学生諸君の「うしろ」にいる社会科の教師の影が少しだけ見えてきたようである。本当は、その「うしろ」にいる社会科教師の姿を見つけ出し、自分の社会科の授業に参考にしようと考えていたのだが。

本来、アンケートのデータは厳密に検討していくものだが、今回はそこまで細かくできなかった。あくまで、大まかであり、アウトラインが見える程度のもので行った。